

高田集藏 （大正） 思想家。明治十二年十月一日岡山縣生れ、昭和二十五年十月十日歿（二八七九—一九六〇）。號大林、禿山人、竹鄰、竹鄰庵主人、竹鄰散人、竹鄰叢書、草廬等。東京專門學校法律科中退。白鷺園等に應召。大正期「獨り」、「村洛通信」、「「一山麓」」等の個人紙誌を發刊、其佛敎儒等多様な宗教の歸一統合に努める。社會運動家久津見房子は一度白の妻（大正九年離婚）。

著書、歌集「寫跡集」（大正十一年五月、二十日生方書店）、「非僧非俗集」（大正十一年八月十日畿部留陽堂）、「聖痕」（大正十一年七月十日聖書文學會）、「敵顔の聖者」（大正十五年一月十五日春秋社）、「竹隣庵隨筆」「木の葉」（昭和六年四月一日流水文庫）、「易廣學端緒・第一冊」（昭和七年一月一日流水文庫）、「漢字の最高能率的檢索法—四百號碼檢字法解説」（昭和十二年八月十五日又求堂書店）、

「檢索快逸—平仮新字典」（昭和十二年十二月十五日厚生閣）、「對應と言葉—古無き解く鏡」（昭和十五年七月十五日昭和書房）、「十字圖式支那止音四聲隨記字典」全二冊（昭和十五年十一月七日新漢學文方々・メ下—「傳習所」）、「耳と物と喉との話—「附」新宗教を創るための」（昭和十七年八月二十日京都・白樹社）、「生命と食物」叢書（）、「寂室語録管窺・第一卷」（竹鄰叢書名、楷註、昭和二十八年八月白刊）等。

十七年八月二十日京都・白樹社）、「生命と食物」叢書（）、「寂室語録管窺・第一卷」（竹鄰叢書名、楷註、昭和二十八年八月白刊）等。